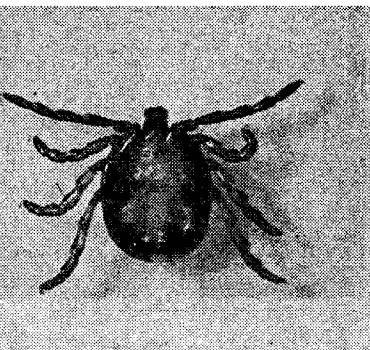


県感染症情報センター

新たな感染症・重症熱性血小板減少症候群

声なき感染症を知る ◆5◆



フタトゲチマタニ(県保健研究センター)

2013(平成25)

年1月、国内初めての「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の患者が山口県で確認されました。その後、011年に、原因がフタトゲチマタニなどのマタニ(室内にいるコナタニ、チリタニとは関係ありません)に咬(か)まれたことから発症した、新たなウイルス感染症だったことが、世界で初めて報告されました。

「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の患者が山口県で確認されました。その後、011年に、原因がフタトゲチマタニなどのマタニ(室内にいるコナタニ、チリタニとは関係ありません)に咬(か)まれたことから発症した、新たなウイルス感染症だったことが、世界で初めて報告されました。

今回はSFTSについて、中国での発見や国内発生状況などを紹介します。

▽ダニ媒介の新感染症の発見

をとり「SFTS」と呼ばれ、ウイルス名はSFTSウイルスです。潜伏期間は、6日から14日程度です。主な症状は発熱と消化器症状(おう吐、下痢など)で、倦怠感、リンパ節腫脹、出血症状なども伴うことがあり、過去に感染したかどうか分かるウイルスの抗体保有調査から、患者が報告されている地域以外の中部、東北、北海道のシカ、イノシシ、イヌなどにも抗体が確認されたことから、それらの地域にもウイルスを保有するマタニの生息が予想され、注意が必要なが、患者が報告され、調査は始まったばかりです。今後、この感染症に関する実態解明や治療方法の開発が急がれます。

▽発熱などの症状

▽致死率は約10%

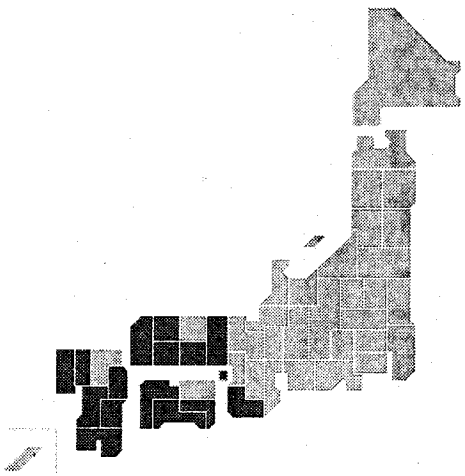
2006年ごろ、中国安徽(あんぎ)省の山間部で原因不明の奇病が発生しました。当初、症状などから「類

病名は「重症熱性血小板減少症候群」です。重症で熱が出て血小板が減少する病気、という意味の英語の頭文字

厚生労働省は昨年3月にSFTSを「四類感染症」に指定し、全ての患者について保健所への届け出を義務付けました。

これまでの患者発生地域は西日本の15県(佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、徳島県、愛媛県、高知県、島根県、岡山県、広島県、山口県、和歌山県、兵庫県)で、マタニが活動的に

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者発生地



なる春から秋に患者の

第2木曜日掲載

多くが発生しています。患者年齢中央値は73歳です。▽急がれる実態解明に期待

これからの患者発生地域は西日本の15県(佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、徳島県、愛媛県、高知県、島根県、岡山県、広島県、山口県、和歌山県、兵庫県)で、マタニが活動的に